

通卷133号

山王

亥歲新春号





新春を迎えて

日枝神社氏子崇敬会長 小池 百合子

平成三十一年の新年を迎え、新春を寿ぎ謹んでお慶びを申し上げますとともに、日枝大神様の広大なご加護が皆様の上に蒙り奉られ、本年も良き年となりますようご祈念申し上げます。特に本年は天皇陛下の御退位及び皇太子殿下の御即位と、わが国にとりまして極めて重要な一年となります。一連の国家行事が善く行われま

すことを祈念しております。
日枝神社の氏子崇敬会第七代会長を拝命してから、早くも二年弱の月日が流れました。この間、皆様からのお力添えを頂きながら、由緒ある日枝神社氏子崇敬会の会長という重責を果たすべく努めてまいりました。東京都知事としての任期も折り返しを過ぎ、気を引き締め直して都政に邁進する所存でございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、日枝神社は「江戸郷の守護神」として江戸の町の繁栄を支えたと伝えられております。江戸は明治維新を境に東京と改称され、以来関東大震災、東京大空襲、そして戦後の高度経済成長を経て、人口一三〇〇万を超える大都市に進化しました。また対外的にも国際都市東京として、経済や金融の面で海外の大都市と連携を深めながら、環境やテクノロジー、福祉の面では成熟した都市のモデルを示す役割も担っています。一方で、江戸時代から続く伝統の技や歴史も、レガシーとして次の時代へと引き継いでいかなければなりません。

そこで昨年東京都では、一八六八年の東京府開設から百五十年の節目を記念し、「Old meets New 東京150年」事業を実施いたしました。「江戸東京きらりプロジェクト」と題した江戸の伝統工芸の展示と体験型のワークショップなど、さまざまなイベントも行いました。開催まで約一年半となった東京オリンピック・パラリンピックでも、「伝統」と「革新」が共存する東京の魅力を発信していくため、広報等さまざまな取り組みを進めてまいります。

本年は亥年です。相場格言では「亥固まる」と言われております。昨年は戌年、「戌笑い」という格言通り、羽生結弦選手の五輪二連覇から始まり、将棋の藤井さんの史上最年少での棋戦優勝、エンゼルス大谷選手の華々しい活躍、甲子園での金足農業の大躍進、全米オープンでの大阪なおみ選手の優勝と若者たちの活躍を中心に微笑み溢れる賑やかな年と相成りました。

一方亥年は「亥固まる」、昨年の良き流れを更に確固たるものにすべく、東京も数々の具体策を実施してまいります。格言通り、しっかりと地盤を固め、更なる飛躍の土台を気付いていく所存です。

結びに、本年も国家の安寧と弥栄、日枝神社のご晋徳の昂揚とご社頭のご隆昌、氏子崇敬会の更なるご発展、また皆様のご健勝とご多幸を心から切にご祈念いたしまして、平成最後の年を迎えるにあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

新春祭典・行事のご案内

- 一月 一日(火) 若水祭
午前零時 神能「ひとり翁」奉奏
山階彌右衛門師 奉仕
歳旦祭
- 一月 三日(木) 元始祭
午前十時
- 一月 六日(日) 奉納書初展感謝奉告祭
午後二時 山王奉書会(参集殿)
午後三時
- 一月 十三日(日) 印章護持祭
午前十一時
- 一月 十五日(火) 月次祭
午前九時
午前十時三十分 神符焼納祭
- 一月 十九日(土)～二十日(日) 神宮初詣旅行会
- 一月 二十八日(月) 新年互礼会
午後六時
- 二月 三日(日) 節分祭追儺神事
午前十一時三十分

特別寄稿



参議院議員 山谷えり子

皇紀二六七九年、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

新年を迎えるにあたり、天下泰平、国土安穩、聖寿無窮、万民豊榮を祈念いたします。

朝、日枝神社に参拝してから仕事に向かつておりますが、外国人も含め年々、参拝者が増えていることを嬉しく思っております。

御代替わりを迎える己亥(つちのと・い)の本年は、成長が整い、次の準備を迎える年といわれています。

平和を成した「平成」の御代から、新たな時代の御代へと私たち国民の歡びと責任の大きさを改めて感じ入るものであります。

六十年前の己亥の年は、当時皇太子殿下でいらした今上陛下と美智子皇后がご成婚され、国内は祝賀ムードがピークとなりました。小学生だった私は、わが家で買ったばかりのテレビに見入り、喜びで心も体も

弾むようでした。

本年五月の御代替わりでは、今上陛下が上皇に、皇太子殿下が新天皇にご即位あそばされます。

三十年余りのご在位の間、わが国と人々のことをお祈り続けてくださったことを国民こぞで感謝申し上げ、新天皇のご即位をお祝いしたいと存じます。

ことに、災害で犠牲となられた方々を悼み、被災者を慰め、警察・消防・自衛隊や自治体職員やボランティアなどの救護にあたられる方々を励まされるなど、人々にお心を寄せる両陛下のお姿は、心に深く刻まれております。

私も防災担当大臣在任時に、御岳山噴火、鬼怒川の堤防決壊などの対応、復旧にあたりましたが、両陛下の国民を思ってお気持ちの深さに多くの国民が前に進む力をいただく姿を目にし、感謝と感動でいっぱいになりました。

りました。

また、同時に国内外の病院や高齢者施設、障害者などの福祉施設もご訪問され、多くの人々を励まし、勇気を与え続けてくださったことも忘れられません。

トロントにあるカナダ最大の小児病院を訪問された際に皇后陛下は、たくさんの子供たちに囲まれる中、「ゆりかごのうた」をお歌いになりました。三人のお子様を育てられたお母さまとして、この子守歌を選ばれたと聞きます。

そして、唄のおわりに、「今夜はよくお眠を。陛下と共に、皆さんの幸せを祈ります」と優しく語りかけられました。「皇室は祈りでありたい」「心を寄せ続ける」という思いとご姿勢に私たちはたくさんさんの勇気と愛の力をいただき、日々が豊かになる思いがしたものです。

我が国の根幹は、世界最古のご皇室をいただくという国柄にあるように思います。

その国柄の中で、私たちは美しい情緒、思いやり、敬神崇祖の心を育んできました。

現在、私は自由民主党の文化立国調査会長をつとめており、連綿と続く伝統を大切にしつつ、二〇二〇オ

リンピック・パラリンピック東京大会にむけ、日本の力の源である文化の力を全国津々浦々に浸透させていきたいと働いているところです。

地方創生、人生百年時代にもつながり、外国人観光客も日本の深い理解者となってくれるよう尽力してまいります。

日本の文化は祈り、寿ぎの心と自然との共生など美しさと喜びに満ちています。

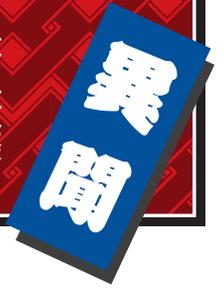
世界が対立、混乱にある中、日本の文化発信が世界を調和へと導く力になるよう、力強い歩みを進める一年としたいと願います。

また、拉致問題対策本部長として、北朝鮮をめぐる状況が大きく動いている中、何としても拉致被害者の全員一括帰国にむけて結果を出していくよう力の限り働いてまいり所存です。一日千秋の思いで、被害者の帰国を待ち望むご家族との約束を果たすため、政府とも連携してあつているところです。

結びにあたり国家の安寧と皆様のご多幸を心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

山王祭

—日本三大祭—



江戸祭禮研究

山瀬 一男

天皇陛下御即位奉祝

平成三十年は、今上陛下が即位されてから三十年の節目の年でありました。日枝神社山王祭も、産子各町が『今上陛下即位三十年奉祝』の旗等をかかげ執り行われ、全国各地でも奉祝として同様な祭禮を行ったことは記憶に新しいことと思われます。さて、今上陛下は本年四月三十日をもって、皇太子殿下に御譲位なさいます（践祚）。そして本年十一月の大嘗祭（天皇即位後に行う最初の新嘗祭。天皇一世に一度だけ行われる祭）で、皇位継承したことを国内外に示す即位の礼が行われるのです。明治以降、天皇陛下が即位されると国民は奉祝行事を行い、特に皇居のお膝元である東京では、大々的にそれが行われていました。

● 明治四年十一月十七日

明治天皇大嘗祭豊明節會

● 大正四年十一月十日

大正天皇御即位奉祝

● 昭和三年十一月六日

昭和天皇御即位奉祝

● 平成二年十一月十四日

今上陛下御即位奉祝

このように新天皇が即位されると、東京市民はこぞつて御即位奉祝を行いました。その模様を大正天皇が即位された時を例にとつて紹介したいと思います。（これは東京市役所発行の「御大禮奉祝志」や「記念写真葉書」を基に記述するものです。）

大正天皇の即位の儀は、大正四年（一九一五）十一月十日、京都御所紫宸殿で行われました。同十四日の大嘗祭に合わせて、東京では皇居前馬場先門附近に巨大な「萬歳奉祝門」



写真 2



写真 1



写真 4



写真 3



写真 6



写真 5



写真 8



写真 7



写真 10



写真 9

が建てられました。(写真1) 東京市奉祝会場は上野公園に設けられ(写真2) 東京の中心部となる各所に、様々な奉祝門が建てられました。(写真3 東京駅前 4京橋 5日本橋 6 萬世橋 7 九段坂上、その他 四谷・下谷黒門町・本郷三丁目)

また、桜田本郷町・土橋・新橋・今川橋・神田橋・両国橋・京橋南鍋町・下谷稲荷町・浅草雷門などの通り沿いには、豪華なイルミネーション付きの装飾が施され、特に日本橋から銀座にかけての中央通りでは、夜でも明かりが煌々と灯されました。

その中央通りを中心に、特別仕立ての市電「花電車」も十台ほど走り、そこに華を添えました。この花電車は、かつての天下祭の曳き物の流れを汲んだものだと思います。(写真8 萬歳太平楽 9 胡蝶の舞 10 蓬萊山 等)

江戸名物『天下祭の山車』も御仮屋を建て展示されました。

●日本橋際 日本橋西河岸「武内宿禰」(写真11)、日本橋通一丁目「神功皇后」(写真12)、魚河岸「弁財天」●神田鍛冶町付近 鍛冶町「小鍛冶」、旭町「龍神」、堅大工町「飛騨内匠」(写真13)、豊島町「豊玉姫」、通新石町「徳歳神」(写真14)、

須田町「関羽」、佐久間町「素戔嗚尊」(写真15)

●外神田仲町付近 旅籠町一丁目「翁」、台所町「石橋」(写真16)、旅籠町二丁目「和布苅神事」(写真17)

なかでも魚河岸は、『祝大典』の揃いの半纏を着て、江戸橋から馬場先門へと黒牛曳きの山車行列を行い奉祝しました。(写真18)

その他、山車曳きの記録としては、日本橋区中洲町「鳳凰」、三田六ヶ町「渡辺綱」「神武天皇」「楠木正成」「牛若丸」ほか四本(子供用新造)、京橋



写真 12



写真 11

区南鍛冶町一本、芝区西久保八幡町山車数本とその他が馬場先萬歳門へと進み奉祝しました。(写真19、20)

大正初期には、町神輿が多く造られていました。日本橋檜物町は神輿を出し、馬場先門にて萬歳奉唱。深川八幡産子町から三十九基の神輿が永代橋を渡り、馬場先門へ。牛島神社産子町八基、亀戸天神産子町六基、鳥越神社産子町十二基の神輿も、ぞくぞくと馬場先門へと向かい同じく萬歳奉唱をしました。(写真21、22)

その他赤穂義士の仮装行列や奉祝旗行列提灯行列等も各地区から組ま



写真 14



写真 13

れ、馬場先門へと向かいお祝いしました。麹町区では半蔵門外に国旗装飾塔が建ち、四谷見附に至る大通りには紅白三段幔幕が張り巡らされました。その他の各区にも様々な幕や旗が建てられ、東京市中は一変しました。

その様な最中、京都行幸に向かう陛下の車駕が馬場先萬歳門を通御しました(写真23)。東京市中(特に馬場先門附近)の雑踏や興奮は、いかに想像に難くありません。

御大礼の前年の大正三年(一九一四)には、欧州で世界大戦



写真 16



写真 15

が勃発しました。

江戸時代に鎖国を解き、明治期を通し近代国家となった日本は、この大戦で連合国側に加わり、名実ともに世界の一員となったわけです。そのような世界情勢の中、大正天皇の即位奉祝が行われていたのです。あらためてこの時代の日本の勢いが感じられます。

平成五年(一九九三)六月九日、皇太子殿下が御結婚されました。その日の午後にご成婚パレードがあり、同時刻山王氏子日本橋九段の神輿数基が、日本橋から新橋まで神輿



写真 18



写真 17



写真 20



写真 19



写真 22



写真 21



写真 23

渡御をしてお祝いしたことを記憶されて
 いる方も多いと思います。
 このたびは皇太子殿下が天皇陛下
 に即位される訳ですから、御大典の
 日に『皇城の鎮』たる日枝神社氏子、
 東京都民、そして日本国民はどのよ
 うな奉祝行事で寿ぐことになるの
 でしょうか。

日本橋住人記す



謹みて新年の

御祝詞を申し上げます

頌 春

平成三十一己亥歳

日枝神社

代表役員 宮西修治

責任役員 細田安兵衛

同 中澤彦七

同 福原義春

同 大澤忠政

同 澤田晴子

同 高木 茂

責任役員 大塚正行
 権宮司



謹賀新年

略称敬不同

エスピー食品(株) 代表取締役 社長 小形博行	いちよし証券(株) 代表執行役 社長 小林 総	(資)北見商店 代表社員 北見まさゑ	北見不動産(有) 会長 北見芳夫 代表取締役 北見丈亜	八丁堀 茅場町・兜町	金子架設工業(株) 代表取締役 青木 茂	(株)プレナス 代表取締役 社長 塩井辰男	中西瀝青ホールディングス(株) 代表取締役 森口友美子	木村實業(株) 代表取締役 木村平右衛門	川崎定徳(株) 代表取締役 川崎眞次郎	日本橋吉野鮭本店 吉野正敏	(株)高島屋 常務取締役 亀岡恒方
やす幸 石原 壽 松井俊樹	(株)小林傳次郎中央地所部 代表取締役 代表取締役 代表取締役 小林 弘忠 小林 久子	(株)木村商店 代表取締役 木村 暖子	(株)小松ストア 代表取締役 小坂 敬	(株)ギンザのサエグサ 会長 三枝 進	新銀 橋座	中島金屬箔粉工業(株) 代表取締役 社長 中島 武	(株)トータルオフィスパートナー 代表取締役 社長 岩崎 浩	(株)トミタ 代表取締役 社長 富田正一	(株)大澤ローヤル 代表取締役 大澤 忠政	京 橋	新日本不動産(株) 代表取締役 中島 信子
京橋大根河岸会 会長 鈴木敏行	東京中央青果(株) 代表取締役 社長 鈴木敏行	(株)錦屋マリエマリエ 取締役社長 勝田久美子	きねや足袋(株) 代表取締役 中澤 貴之	崇敬者(氏子外)	銀座吉田(株) 代表取締役 吉田 民雄	(株)ホツタ 取締役社長 堀田峰明	(株)銀座木村家 代表取締役 木村美貴子	銀座越後屋 八代目 永井甚右衛門	(株)新橋玉木屋 代表取締役 田卷 章子	正金商事(株) 代表取締役 蛸原宗久	(株)銀座ナイン 代表取締役 社長 柴田孝則
佐竹昭二	(株)大槻装束店 代表取締役 大槻奈津子	(株)高田装束店 代表取締役 加藤充則	(株)井筒装束店 代表取締役 社長 佐織鉄郎	(株)糟谷 相談役 糟谷孝男	(株)キョウエイアドインテナーナショナル 代表取締役 社長 廣瀬勝巳	(株)アーバネットコーポレーション 代表取締役 社長 服部信治	(株)ナンシン 代表取締役 会長 齋藤信房	鈴木徽章工業(株) 取締役会長 鈴木健之	(株)ホツトアート 代表取締役 望月秀峻	(株)ミロク情報サービス 代表取締役 社長 是枝周樹	(株)フエム 代表取締役 藤田 誠

頌 春

平成三十一己亥歳

日枝神社

宮 司宮西修治

権宮司大塚正行

権 宜高原聖司

権 宜鎌田周作

権 宜土田幸大

同 八巻岳秀

同 片山 徹

同 内田博之

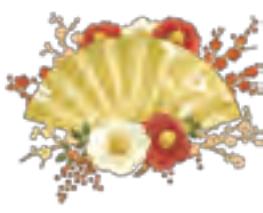
同 杉山正吉史

同 手塚和記

同 松橋裕晃

同 高野大樹

同 勅使河原翔幣



平成三十年 回顧

一月	元旦	若水祭 歳日祭 國學院大學坂口吉一理事長参拝 小池百合子氏子崇敬会長参拝
二月	二日 三日 六日 十五日 二十日 二十二日 二十五日	元始祭 第五十四回奉納書初展感謝奉告祭 神符焼納祭 第五十六回神宮初詣旅行至二十一日 神社本庁統理総長副総長参拝 新年互礼会
三月	九日	第二回責任役員会 第二回神社総代会（大総代会） 氏子崇敬会評議員会 春季皇霊祭遙拝
四月	二十日 二十九日	末社山王稲荷神社例祭 昭和祭



節分祭



新年互礼会



ひとり翁奉仕

五月	四日 十八日 二十五日	御神田田植祭於千葉県香取市 第二回祭典委員会 第三回責任役員会 第三回神社総代会（大総代会） 責任役員大総代会合同会
六月	一日 七日 十七日	御垣内清掃奉仕 山王祭 八坂神社例祭 神幸祭
七月	十五日 三十日	大祓並鎮火祭 例祭
八月	二十日	緑蔭朝詣りとラジオ体操の集い 開会奉告祭
八月	三日 四日 二十六日 三十日 三十一日	責任役員会 第四十回箸感謝祭 奉賛青年会創立六十週年記念大会 星岡会（旧職員会） 緑陰朝詣りとラジオ体操の集い 閉会奉告祭

寄稿

文久二年山王祭附祭の 正月節供錦絵 (上)

つげまつり

武蔵大学 教授 福原敏男

掲載の錦絵「新乗物町附祭礼」(神田神社蔵、以下、本図と表記)は、

浮世絵師歌川芳艶が「若菜摘みの学まねび」を描いた作品で、平安貴族の正月行事を幕末の山王祭に模倣(真似び)した附祭の練物である。

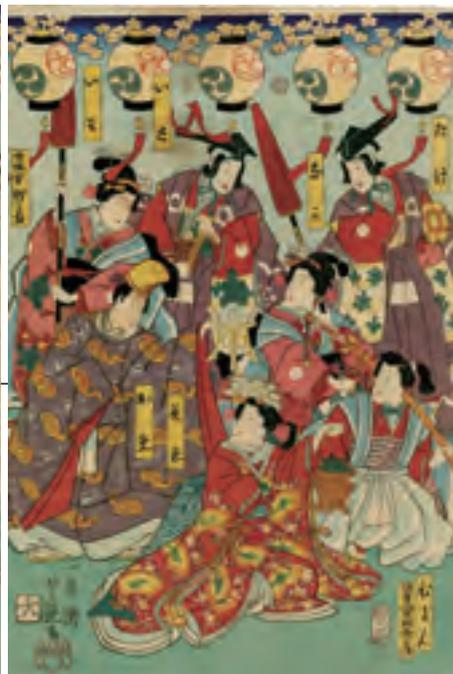
文久二年六月十五日(西暦一八六二年七月十一日)の山王祭行列は、将軍が江戸城内で上覧した最後の天下祭となり、その前や氏子町の棧敷席等で附祭が演じられた。しかしながら、芳艶がこれを実見して描いたわけではなく、版元が附祭の情報事を事前に得て描かせ、絵草紙屋にて、また祭礼当日売り出されたも

ので、実際の祭礼と異なるところもあるだろう。

さて、当時の山王祭において、氏子の町人は隔年祭の四十五番組による山車に加えて附祭を出した。江戸の祭礼では十八世紀中期以降、その時々流行やニュース、芝居や物語の仮装や歌舞音曲を題材とした毎回新作の附祭を出して人気を博した。山王祭や神田祭では、天保改革前には十数種の附祭が出されたものの、同奢侈規制により三番組のみ、一番組に付き三種、計九種に制限された。以降、氏子町は傘を差し掛け踊りながら行列する「地走踊じしほり」、移動

文久二年山王祭附祭表

番組	附祭年番町	統一テーマ	趣向	音楽	音楽	現在地 (現中央区、：相当を略す)
一七	小網町二丁目 小網町三丁目 小網町一丁目・横町	七五三	七夕 端午 上巳	練物 地走踊 踊台	常磐津 清元 長唄	小網町は日本橋小網町 小網町二丁目のみ人形町一丁目に及ぶ
一八	新乗物町 新材木町	三節(供)	正月 五月 九月	練物 地走踊 踊台	富本 清元 清元	新材木町は日本橋掘留町一丁目・人形町三丁目 新乗物町は日本橋掘留町一丁目
二八	大鋸町 本材木町五・六・七丁目	松竹梅	松 竹 梅	練物 地走踊 踊台	長唄 常磐津 常磐津	大鋸町は京橋一丁目 本材木町五・六・七丁目は京橋一三三丁目



歌川芳艶画、三枚続錦絵「新乗物町附祭礼」(神田神社蔵)

舞台の「踊(屋)台」、仮装による行列や踊りの「練物」(狹義)にて参加した。

この両祭の附祭を担当した氏子町の出し物のみを描いた作品が伝来しており、担当町やその大店などが事前に專業絵師に注文し、記念や記録のため自分たちの出し物を描かせたが、それらには肉筆の祭礼図が多く、謂わばオーダーメイドである。これに対して、レディーメイドの複製(木版画)の商品、錦絵があり、本図のように担当町による一種類の附祭のみが描かれることが多かった。そのため、多売されたものか定かではないものの、芸能の家元クラスのスターや町娘など出演者の人気に支えられて商品化されたものと思われる。

さて、文久二年の附祭三組の内、山王祭第十八番組の新材木町と新乗物町は日の出を背景に松と鶴の山車、その後ろに附祭として、新乗物町の正月節供の練物、新材木町による五月節供の地走踊と九月節供の踊台の「三節の見立」にて参加した。表は同年の全附祭の構成である。

この三節供の附祭を芳艷が描いた、三種類、各三枚続の錦絵が伝来しており、未確認以外の八枚の大き

さは一枚縦三五、六cm、横二四、五cmとほぼ同寸であり、三種とも左が酷似した囃子図、改印は戊五(文久二年五月)、版元は不詳(□に大印)である。以上の点より、これらは一セットとして制作・流通・販売された可能性もある。

平成三十年五月、筆者は國學院大學博物館との共編著『最後の天下祭―文久二年の山王祭―』(同博物館発行)を上梓し、絵本番付「山王御祭礼番付」(國學院大學図書館等蔵)の翻刻、口絵には上記の五、九月節供の錦絵を掲載した。同館准教授大東敬明氏の「歌川芳艷画「新材木町附祭礼」―口絵解題―」によると、新材木町附錦祭絵二種とも上部に同様の提灯と桜の造花が描かれているところからセットの可能性が指摘されている。芳艷は国芳の門人であり、右三種に先行して、師弟合作の三枚続錦絵「祭礼図」(個人蔵、練馬区立美術館編集・発行『国芳イズム―歌川国芳とその系脈』二〇一六年)を描いている。これも右三種同様、二枚が練物、左が囃子図で、上部には三つ巴紋の提灯と造花の飾りが配され、嘉永期の山王祭附祭と考えられる。また、芳艷は山王祭のみなら

ず、三枚続錦絵「神田明神御祭礼の図」(江戸東京博物館蔵、上記山王祭附祭図とほぼ同寸、嘉永年間)を描いており、国芳没後の文久二年に上記を踏まえて、単独作の山王附祭図三種を描いたものと思われる。

この三種には現在以下の所在が確認されているが、同じ節供の錦絵は同版である。

正月・神田神社(囃子図のみ五月)、国立歴史民俗博物館二枚(褪色)、囃子図は欠

五月・日枝神社(筆者奉納)、国立音楽大学附属図書館竹内道敬文庫、日本芸術文化振興会。江戸東京博物館・神田神社・國學院大學博物館の囃子図のみ九月、国立歴史民俗博物館二枚、囃子図は欠

九月・国立音楽大学附属図書館竹内道敬文庫、日本芸術文化振興会、江戸東京博物館、個人(「川越氷川祭礼の展開」川越市立博物館編集・発行、一九九七年)

本図の右・中の出演者に関して、先の絵本番付に照らしても問題ないものの、左の囃子図は検討を要する。市松模様の朝顔型障子屋根に造花を飾った底抜け屋台のなかでは、四人の三味線と五人の唄方が徒

囃子で唄い奏し、屋台上には七人の芸名のみが記される。

実はこの囃子図は、日枝神社等蔵の五月節供の囃子図と同版であり、前掲の絵本番付の五月節供に記された囃子方・唄方と同名である。

つまり、本図左の囃子図は五月節供のものが取り違えられて伝来し、神田神社が近年購入した作品であり、残念ながら正月節供の囃子図は現在のところ確認されていない。

取違は正月節供のみならず、江戸東京博物館・神田神社・國學院大學博物館蔵の五月節供の囃子図は九月節供を描いたものである。

一体なぜ、このような取違が起こったのか。既述したように、この三種(三節供)の三枚続錦絵は同時制作、発売の一セットとして宣伝、流通、販売され、伝来した可能性が高い。囃子図の絵柄は酷似しており、間違えやすく、取違や紛失が生じたものと思われる。しなしながら、五月囃子図の取違がいずれも正月ではなく、九月である点については、正月囃子図の探求とともに今後に期したい。

名誉宮司宮西惟道 大人命一年祭

名誉宮司宮西惟道大人命の一年祭が、大塚正行権宮司齋主の下、帝国ホテル孔雀の間にて執り行われました。

当日は台風二十四号上陸の影響で風雨が強い日であったにもかかわらず、責任役員細田安兵衛殿、東京都神社庁平岩昌利名誉庁長・東京都神社庁貴嗣庁長を始め、責任役員大総代氏子崇敬会役員、神社関係者等三百名を超える方が参列されました。

祭典の後は同会場にて直会を行い、在りし日の名誉宮司の映像が流れる中、和やかに故人を偲びました。



拔穂祭執行



9月2日(日)に千葉県香取市の御神田に於いて拔穂祭を執行しました。

当日は雨にも係わらず、氏子崇敬者多数参加の下、稲刈り奉仕を行い、収穫された新穀は11月23日(金)の新嘗祭にお供えされました。



麴町消防少年団 麴町消防少年団来社



11月11日(日)に麴町消防少年団の皆さんがお越しになり、七五三や結婚式で賑わう境内にて火災予防運動の広報活動を行いました。

「日枝神社広報大使」に井本 彩花さん



今年度の日枝神社広報大使に女優の井本彩花さんが就任されました。

十月三十日(火)の就任式の際には神前にてお参りの後、多数の報道陣に囲まれながら、七五三の思い出や巫女への思い入れを語られました。

今後は広報大使として東京メトロ全線の社内ビジョンにて配信されるCMに出演される他、二月三日(日)に執り行われる「節分祭」にも、特別年役として参列を予定しております。

日枝神社家庭曆上梓

「平成三十一年己亥年日枝神社家庭曆」
現在、二百円にて頒布中です。



ピーポくん 出動

10月9日(火)に、平成30年全国地域安全運動の一環として、麴町警察署署員の方々と共に、警視庁マスコットのピーポ君が来社し、広報活動をされました。

七五三詣のお子さんや成の日の安産祈願の御夫婦と共に、和やかに写真撮影等を行いました。

訃報

責任役員 泉 邦夫 殿

平成三十年九月六日

泉邦夫殿は平成二十三年十二月から当神社責任役員、氏子崇敬会副会長を務められ、神社の維持運営に御尽力されましたが、平成三十年九月六日に逝去されました。

(行年七十一)ここに御功績を称え、謹みてご冥福をお祈り申し上げます。

山王台通信

神社本庁辞令

日枝神社権禰宜に任ずる
主典 小野 太誠
(平成三十年六月一日付)

東京都 権禰宜 伊久 裕之
福德神社権禰宜に転任
(平成三十年七月一日付)

北海道 権禰宜 小野 太誠
飯生神社権禰宜に転任
(平成三十年七月一日付)

〈通巻百三十三号〉

発行 平成三十一年一月一日
編集 日枝神社社務所

東京都千代田区永田町二丁目十番五号

(郵便番号 100-0014)

TEL 〇三-三五八一-二四七二代表

FAX 〇三-三五八一-二〇七七

http://www.hiejinja.net/



©わたせせいぞう

平成 31 年厄年表 (数え年)

男の厄年

前 厄	本 厄	後 厄
平成 8 年生 24 歳 ね(ねずみ)	平成 7 年生 25 歳 ゐ(いのしし)	平成 6 年生 26 歳 いぬ
昭和 54 年生 41 歳 ひつじ	昭和 53 年生 42 歳 うま	昭和 52 年生 43 歳 み(へび)
昭和 35 年生 60 歳 ね(ねずみ)	昭和 34 年生 61 歳 ゐ(いのしし)	昭和 33 年生 62 歳 いぬ

女の厄年

前 厄	本 厄	後 厄
平成 14 年生 18 歳 うま	平成 13 年生 19 歳 み(へび)	平成 12 年生 20 歳 たつ
昭和 63 年生 32 歳 たつ	昭和 62 年生 33 歳 う(うさぎ)	昭和 61 年生 34 歳 とら
昭和 59 年生 36 歳 ね(ねずみ)	昭和 58 年生 37 歳 ゐ(いのしし)	昭和 57 年生 38 歳 いぬ

東京都千代田区永田町 2 丁目 10 番 5 号
 TEL. 03-3502-2205
 FAX. 03-3502-8948
<http://www.hieakasaka.net/>



日枝神社
結婚式場

ひ え
日枝 あかさか